「2012 年度　北関東地区　講演・見学と報告の会」レジュメ

日時：2012 年 8 月 25 日（土）　13:30　～　17:20

場所：日立市教育プラザ　2 階　ギャラリーB

富田和雄　記

日本技術士会原子力・放射線部会、茨城県支部、ＪＡＥＡ技術士会、日立原子力技術士会の共催で上記の会合が開催され、参加者は 22 名（講師 2 名含む）であった。会合は「講演と見学」「報告」の二部構成であり、以下に概要を報告する。

第Ⅰ部（日立理科クラブの講演と見学）

○　日立理科クラブの活動紹介及び見学（日立理科クラブ　副代表理事　加藤洋明氏）

2009 年 5 月開所の日立理科クラブの設立の経緯、活動状況について紹介。小中学校で理科の好きな生徒の割合が減少していることを受けて、日立市教育委員会に連携し、理科教育普及の手助けとして設立。シニア人材を活用して社会に還元する活動。理科室のおじさん（25 校、累計 1,778 日）、小中学校授業支援、理数アカデミー、モノづくり工房、科学ふしぎ発見教室、地域科学教室（延べ 384 回、18,685 人参加）（2011 年度実績）など、97 人のスタッフで６つのプロジェクトを展開。学校ではやらないことを幅広くテーマとして取り込んでいる。講演の後に見学した簡易プールでのポンポン船実習では、参加の親子のみならず講師も眼を輝かせ、工作室には様々な発電模型など最新の手作り教材が所狭しと並んでいた。

○　次世代の科学者・技術者育成をめざして（日立理科クラブ　理事　鈴置　昭氏）

日立理科クラブの上級クラスで、中学生を対象にした理数アカデミーの概要について紹介。科学者や技術者を目指す中学生に「手作り理科教室」を提供。学年別、分野別に、エキスパートがチームで指導。実験・工作中心の理科クラス、実習・応用中心の数学クラスがあり、2012 年度は述べ 77 人が在籍。キャリア意識の醸成にも注力。講演では、国際調査の結果に基づく日本の子供たちの理科離れの傾向、原因および対策について、興味深い考察が披露された。JST 次世代科学者育成プログラム（中学生の部）に NPO として初めて選定され、「理数アカデミー（フェーズ２）」として、20 世紀以降、応用分野を学習範囲とする方針をさらに一歩進め、理数、2/3 年生混成の育成チーム、横串型テーマ研究などにより、実生活での疑問に応える理数アカデミーを目指す。

第Ⅱ部（各技術士会と参加技術士の状況報告）

○　原子力・放射線部会活動報告（桑江部会長）：後発だが牽引役の自負を持って部会発足。福島復興支援活動として参加した富岡町災害復興ビジョン策定委員会では、放射能・放射線に関する事実誤認によって議論が誤った方向に向かわないようにアドバイスする役割を担っている。今後の活動の方向性として、被災者と直接向き合う支援活動の継続、事故再発防止に向けた決意、客観的な分析に基づいて、他部門の技術士も巻き込んでの本質的な議論に取り組んでいく。

○　茨城県支部活動報告（本田支部長）：今年度発足。これまでの茨城県技術士会の活動も含めて報告。会員構成では、全国会員数比で見た場合、原子力・放射線部門の比率が突出して高い。2012 年 6 月 16 日の第 1 回年次大会、発足披露祝賀会には約 130 名が参加。中小企業活性化支援センター、原発事故対応（やさしい原子力の勉強会、JAEA 技術士会の支援により技術士自身の理解向上のために実施）、中性子応用技術解説事業（中小企業への橋渡し）、地域社会との連携などについて報告。

○　JAEA 技術士会活動報告（栗原氏）：2007 年 1 月発足、現在会員数 31 名。福島原発事故後はやさしい原子力勉強会を 4 回開催。技術士受験者減により、残念ながら本年度の試験準備講座を中止。原子力・放射線部門の技術士資格活用が課題。

○　日立原子力技術士会活動報告（伊東敬氏）：会員数 103 名。2011 年度は福島事故対応により受験者が減り一次、二次試験ともに合格者が減少。新入社員は全員一次試験を受験。技術士試験支援活動を継続し、他技術士会とも交流。

○　その後、参加技術士全員から近況報告や今後の活動項目の提案があった。